

# 室町期東国の莊園公領制と「郷村」社会 上総国を事例として

湯浅治久

The Muromachi Period Togoku Shoen Koryo System and Goson Society

はじめに

- ①室町期西上総の歴史的環境と莊園公領制
- ②「郷村」社会の領域編成
- ③「郷村」社会の結衆と侍
- ④地域権力・大名権力と侍層

おわりに

## 【論文構成】

本稿は、室町期の東国の莊園公領制と「郷村」との関わりについて検討する。東国における莊園公領制の研究は、主に在地領主制との関わりで検討されてきたが、そこでは民衆生活の場である村落の問題を基底にして、その社会的枠組みが如何に地域社会に受容され、中世後期～近世に至るのかについての研究蓄積ははなはだ少ない。本稿はこの問題について上総国を事例として検討するものである。具体的には、鎌倉末～室町初期に、足利氏の政策や在地領主の莊園支配が、莊園制的な枠組みを一定程度再編成することを論じ、さらに、そこで「空間を分節化する論理」としての莊園公領の枠組みが、「郷村」として継承されてゆくことを論じた。さらに「郷村」を主導する侍層の検討を通じて、室町～戦国期の地域社会の様相と人的結合の実態を探つた。その上で、この地域の地域権力・大名権力との関わりについて言及した。